web 版

学校だより

# にしとべの丘

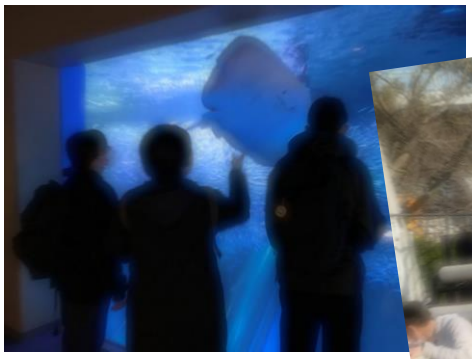
Nishi-Tobe　no　Oka

横浜市立西中学校
2022(令和4)年
3月1日

## ３学年卒業遠足（八景島シーパラダイス）

2月23日（水）に卒業遠足に行ってきました。当日は天候にも恵まれ、祝日ながらジェットコースターの最大90分待ち以外は水族館やアトラクションは待ち時間も短く、生徒はみな楽しい一日を過ごすことができました。班で思い出作りにカメラを持参して撮影した、“映える写真”は、職員が撮るものよりも上手でした。入試を終えて一段落したタイミングで、気持ちよさそうに笑顔で過ごしている様子を見て、コロナ禍の中でも卒業遠足を実施できて本当に良かったと思います。

このあとは、本格的に卒業式の練習が始まります。子どもたちが胸を張って卒業できるように準備をしていきたいと思います。



# 2学年職業講話

１月26日（水）の５･６校時に、２学年職業講話を行いました。例年、2学年では職場体験に出ていますが、今年度は助産師の佐藤志保さんと飲食店経営者の甲斐貴彦さん2名を学校にお招きし、講話をしていただきました。

佐藤さんからは、「命の誕生」の瞬間に携わるだけでなく、妊婦さんに寄り添うことの大切さなどを伝えていただきました。甲斐さんからは飲食店は「作る」ということ以外に多くの仕事があること、仲間や夢を追うことの大切さなどを伝えていただきました。背筋を伸ばし、真剣に話を聞き、自分に照らして考えている生徒たちの姿が印象的でした。生徒にとっては自分の将来について考えるきっかけとする時間となりました。

＜生徒の振り返りから（一部抜粋）＞

- 助産師の仕事は、お産を手助けすることだけだと思っていたので、他にもたくさんの仕事があって大変なことを知りました。私の母も出産で長時間頑張ってくれたと思うと、感謝してもしきれないと思いました。仕事に誇りをもつことができるいい仕事だとも思いました。
- 一番心に残っているのは、人との「つながり」です。話を聞いて人の支えがあってこその飲食店なのだということに気づきました。自分は人とつながりたくないという気持ちが心の奥にあり、人を避けてきました。ですが、今日の話を聞いて、自分は変わろうと思いました。今日は本当に有難うございました。

# 横浜市総合文化祭作品展

１月26日（水）～30日（日）に横浜市民ギャラリーで横浜市総合文化祭作品展が行われました。西中学校からは、美術科と個別支援学級から作品を出品しました。美術科では、1年生で絵文字の制作とテラコッタのランプシェード、2年生で繰り返しの文様を使ったエコバック制作とお菓子の箱のパッケージデザインの作品を展示し、個別支援学級では成長の木をテーマに、スウェーデン刺繍や羊毛フェルト等を組み合わせた作品を展示しました。

# 児童生徒交流会

〈生徒会担当〉

1月21日(金)に児童生徒交流会を行い、西中の生徒会役員と西前小の6年生が参加しました。委員会や部活動についてまとめた動画や、小中学校の違いをまとめたリーフレットをもとに、生徒会役員が小学生に向けて説明しました。

今年度は感染症対策からオンラインでの開催となりましたが、画面越しでもお互いの話をしっかりと聞くことができました。最後の質問コーナーでは、小学生から多くの質問が投げかけられ、生徒会役員が丁寧に回答しました。

当日参加できなかった生徒もいましたが、劇のシナリオ作りや動画の撮影などの準備に意欲的に取り組み、新入生を迎える意識を高めることができた活動となりました。

## 食育コラム「食で学ぶ　食を学ぶ」

元横浜市教育委員　長島 由佳

厳しい寒さが続いていますが、空気は澄んでいます。日々、外す時間が少ないマスクの生活では、眼鏡が曇ったり、不織布が唇に触れることで肌が荒れたりと、思わぬ状況や症状にみまわれることもあります。花粉症の私は、マスクの絶対的活用で、くしゃみの発生率が抑えられ、以前はどれだけいい加減な対応をしていたのかと、妙な反省をしています。

さて、満開の梅の木を見かけるようになりました。その枝振りを見ると春を告げる鳥である「鶯」のさえずりが聞こえてくるような気がします。

箱根の金時山に向かう登山ルートの一つに、「うぐいす茶屋」という呼称の茶屋があります。その名の通り、初夏～8月初めまでも、鶯の競うようなさえずりが響きわたる場所です。笹藪の中にその姿は見つけられないのですが、ケキョケキョホーホケキョなどと響いてくるその声はとても力強く、並ならぬ生命力を感じます。雌への求愛や縄張りを守る時の雄の泣き声と聞いています。

そして、立春の前後より、和菓子屋さんの店頭にも鶯が登場します。そう、うぐいすきな粉を纏った「うぐいす餅」です。さらしあんを求肥で包み鶯を形どり、青大豆を煎って粉にした美しい早春色のきな粉が振りかけられています。命名は豊臣秀吉と言い伝えられてるようですが、茶道を愛し季節を重んじた人が名付けたことがうかがえます。桜餅や桜道明寺と並んで、早春から門出の頃を彩る日本の美しさを醸し出す「季節の風物詩」となっています。

これから梅・桃・桜の花々が紅・白・ピンクと順に開花し、私たちの目を次から次へと楽しませてくれます。家庭のダイニングでは、季節にちなんだ和菓子を囲み、心の豊かさを醸成する美味しい時間を作ってみてはいかがでしょうか。

２０２１年度も最後のコラムとなりました。鶯のさえずりが聞こえてきたら、そのたくましさに思いを馳せ、子どもたちの将来も力強いものとなるよう願いを込めたいと思います。